

# ネーチャー・ウォッチ



## 絶え間なく変化する気象 ⑧

赤道に近いマレーシアの首都クアラルンプールなどで、二〇〇六年から〇七年にかけての冬季に激しい雨に見舞われ、洪水の被害が家々を驚かせた。

出た。本来なら冬は、マラッカ海峽側の同国西部ではほとんど雨が降らない乾燥した季節だけに専門家を驚かせた。



クアラルンプールに発達した雲が迫る  
(2007年12月)

### モンスーン

## 乾期でも洪水の被害

日本を含むアジア地域はモンスーンと呼ばれる大規模な大気の流れの影響を受けており、季節特有の風が吹く。マレーシア周辺は夏には湿った南寄りの風が吹き雨が降り、冬は北東風が吹くが、雲は山にせき止められクアラルンプールなど西側は乾燥する。ただ、山の高さは二千級。北東風に伴う低い雲ではなく、別の仕組みでできた発達した雲なら山に妨げられず広範囲に大雨をもたらさう。

名古屋大学の安成哲三教授は「熱帯低気圧が発生し、南シナ海を西進してくるのが大雨の原因ではないか」とみる。地球の自転が渦をつくり出す効果がない赤道直下で熱帯低気圧は発生しないとされるのに、なぜこのような現象が起きるのかはわかっていない。

地球温暖化がモンスーンに影響を与え、輸送される水蒸気量が増えるなどの変化が起きた可能性もあるという。日本の梅雨前線もモンスーンと連動しており、マレーシアの異常な洪水は人ごとではない。